

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

2020年1月1日以降重油に含まれる硫黄に対する規制が始まっています。各船社とも Low Sulphur Compliance Charge(LSFCC)の導入をしています。3月以降もこのチャージは変動する予定となっており引き続き動向に注視が必要です。

他方でシアトル・タコマ、カナダのバンクーバー港など荒波や荒天の影響を受けやすいPNW地域からの貨物は、例年のごとく冬季の悪天候により遅延が発生し始めています。船社によっては遅延を引きずりながら本船の運航を行っており、玉突きで入船予定が遅れている貨物も散見されています。

また新型コロナウイルスに揺れる中国では感染拡大を防止するため、中国政府が当初旧正月の終了を予定していた1月29日からの延期を発表しましたが、生産活動・需要の鈍化を懸念し、いくつかの船社では予定していた中国への寄港を取りやめ、そのまま次の寄港地へ向かうサービス変更の動きが見られます。このことからシンガポールでフィーダー船に貨物を積み替え中国を経由し日本に牧草を輸出している豪州産オーツハイや、北米から中国を経由する地方港への貨物の遅れも発生しています。

ビートパルプ

【米国】

2019年産のビートは、秋口からの悪天候の影響で、生育不良や収穫作業を断念する圃場が多く発生しました。これらの減少分をビートパルプの発生量で換算すると、例年に比べ生産量は約13万トン減少するとも言われております。今後の天候次第では、既に収穫され保管されているビートの品質劣化も考えられ、最悪の場合はさらに2019年産の生産量が減少する可能性もあります。この生産量の減少により、例年よりも1-2か月早い、2月中旬以降に順次工場の生産が終了する見込みとなっている地域もあるようです。

アルファルファ

ワシントン州

ワシントン州では、2019年産の上級品の発生が限定的で供給力も限られているため、他産地に比べて高値で取引されております。一部のサプライヤーでは工場稼働の維持や

顧客へ供給するため、中級品であっても高値で買い付けをしないとイケなかったという声も聞かれます。

オレゴン州

オレゴン州では、産地情勢に大きな変化はありません。産地在庫はほぼ成約済みなため追加買付は困難な状況です。同地域では、高成分アルファルファが比較的多く収穫できたため、当地における上級品に対する需要が集まっており、産地価格は高値のまま推移しています。

カリフォルニア州

南部インペリアルバレーでは、現在一部の生産者で収穫前の掃除刈を行っており、早ければ2月下旬頃から、2020年産1番刈りの収穫が開始される見込みです。産地相場については、収穫前のため落ち着いていますが、本格的に1番刈りの収穫が始まれば、中国、中東の強い需要および繰り越し在庫がない内需の旺盛な買い付けが予想され、産地相場の高騰が懸念されています。

米国産チモシー

2019年産の上級品については多くが成約済みですが、引き続き中級品から低級品に関しては、一部のサプライヤーでは在庫を抱えているようです。チモシーへの需要は堅調ですが、2019年産は価格が総じて軟化したため、コロンビアベースンでは、収益性の高い他の換金作物への転作が始まっており、2020年産のチモシーの作付面積は減少すると予測されています。

カナダ産チモシー

アルバータ州南部のレスブリッジ地区では2019年産1番刈チモシーは、ほぼ成約状態にあり追加で供給できる余力はないようです。他方でいくつか2番刈を保有している生産者もいるようですが、良品のチモシーはカナダ国内の内需向けに販売される見込みです。

アルバータ州中部のクレモナ地区についても、現状追加買いできる1番刈のチモシーはほぼない状態で、在庫も成約済みで今後の出荷に向けられるものとなっています。また現地サプライヤーによると2019年産の出荷ペースは日本、韓国を中心に上級品、低級品ともに好調で2020年産の収穫時期を前に大半の在庫を出荷できる見込みのようです。

スーダングラス

インペリアルバレーでは肥育牛が増頭しているため、低級品や輸出に不向きなスーダングラスに対して旺盛な引き合いがあり、現地では余剰在庫がない状況です。一方で、

2019 年産スーダンの価格が生産者にとって魅力的ではなかったため、2020 年産に対する生産意欲は弱く作付面積を減らす考えの生産者もいるようです。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

現地サプライヤーによるとクレイングラスの出荷は日本、韓国中心に安定的なようです。2019 年産はインペリアルバレーでの作付けが 20,000 エーカーを超え発生量もあったこともあり、サプライヤーによっては 2019 年産の供給余力は若干まだあるようですが、中低級品中心となっています。

他方で昨年来産地相場が堅調なため、時期尚早ではありますが、2020 年産の作付面積は 2019 年産比、概ね横ばい若しくは微増をすると考えられます。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

ペレニアルライストローは、引き続き日本、韓国からの需要が強く、現地価格を押し上げる要因となっております。アニュアルライストローは現地では多少の在庫を抱えているサプライヤーも要るようですが、ペレニアルライストローについて余剰在庫はない状況です。

韓国は、クォーター制度の関係で 12 月に多くのストローを輸入したため 1 月の韓国への出荷は鈍化したようですが、これは一時的なもので 2 月以降の出荷ペースは回復してくると見込まれています。

豪州産オーツハイ／ウィートストロー

輸出向けは各国からの引き合いが非常に強い状況です。特に低級品を求める顧客からオーツハイとストローを混ぜたブレンド品の需要が強くなっています。

国内需要についても相変わらず強く、東豪州では産地価格が上昇しています。各サプライヤーにおいては、今のところ山火事による直接的な被害は受けておらず、生産農家の倉庫に保存している在庫についても被害はないとのことですが、直近の産地相場上昇は輸出市場においても影響が出てくる可能性があります。火災による家畜の被害も報告されていますが、犠牲になった動物の大半は野生動物のようで、放牧草などへの影響が大きく、飼料不足が懸念されます。西豪州からは今回の火災の被害に対する援助としてバール牧草をトラックで輸送し始めているというような記事も見受けられます。

豪州においても、LSFCC（低硫黄燃料チャージ）導入のためのコストは船会社により異なります。1 月出航分からチャージを導入している船会社もありますが、多くは 2 月出航分から導入が始まっています。これに伴い 2 月出航分から各サプライヤーもチャージ分を価格に転嫁する動きがみられます。

以 上